

アーカスプロジェクト 2022 いばらき | アーティスト・イン・レジデンスプログラム

オープンスタジオ開催

2022年11月17日[木] - 20日[日]

3名の招聘アーティストによる滞在制作の成果発表

ARCUS Project 2022 IBARAKI
ARTIST IN RESIDENCE PROGRAM
OPEN STUDIOS

アーティスト・イン・レジデンスの活動成果発表
2022.11.17[木]-20[日] 13:00-18:00 アーカススタジオ 入場無料

On the November 17-20, we

www.arcus-project.com

アーカスプロジェクトに招いた

アリー・ツボタ [米国]

梶原瑞生 [日本]

マリョライン・ファン・デル・ロー [オランダ] のアーティスト3名。

100日間の滞在制作の成果を

アーカススタジオで公開します。

作家と出会いアーティスト・イン・レジデンスを

体感する4日間。

「オープンスタジオ」で会いましょう。

ARCUS Project open 2022

resident artists' studios;

Allie Tsubota [USA]

Kajihara Mizuki [Japan]

and Marjolein van der Loo [The Netherlands].

We cordially invite you to

come and join us as they share

their works-in-progress of

100-day in Moriva, Ibaraki.

アーカスプロジェクト 2022 いばらき | アーティスト・イン・レジデンスプログラム

アーティスト・イン・レジデンスプログラムにおいて、公募によって選ばれた3名のアーティストの100日間にわたる滞在制作の成果を「オープンスタジオ」として公開します。

新型コロナウイルス感染拡大による渡航制限が緩和され、海外からアーティストを迎え入れるのは2019年度以来、3年ぶりとなります。アリー・ツボタ（米国）は、太平洋戦争と戦前から戦後にかけて活動した小説家で詩人の原民喜を、梶原瑞生（日本）は茨城県の大洗町が発祥と言われる民謡《磯節》を出発点とし、調査や制作を行いました。また、2021年度のオンライン・レジデンスプログラムから参加しているマリョライン・ファン・デル・ロー（オランダ）は、桂の木とそれにまつわる伝説「桂男」を生態的、歴史的、経験的に調査し、高度に産業化・機械化する社会における自然と人間のかかわりを見つめました。

オープンスタジオをよりお楽しみいただけるガイドツアーやトークもご用意しています。ぜひともアーティストへの取材、事前の告知にご協力賜りますよう宜しくお願いいたします。



これまでのオープンスタジオの様子 撮影：加藤甫



概要

会 期：2022年11月17日〔木〕 - 20日〔日〕 13:00-18:00
会 場：アーカススタジオ（茨城県守谷市板戸井 2418 もりや学びの里内 2階）
入場無料、日本語通訳あり
ウェブサイト：<https://www.arcusprojectopenstudios.com>
アーティスト：アリー・ツボタ（米国）、梶原瑞生（日本）、
マリオライン・ファン・デル・ロー（オランダ）

会期中のプログラム

◎キッズツアー

小学生対象のスタジオ鑑賞ツアー。定員 15 名。*要予約、先着順（予約締切：11月15日〔火〕）
ご予約はこちらから <https://www.arcusprojectopenstudios.com/info/>

◎ディレクターツアー

アーカスプロジェクトディレクター小澤慶介によるガイド付きスタジオ鑑賞ツアー。
〈逐次通訳あり〉*予約不要

◎トーク「海の向こうの記憶をたずねて」

スピーカー：山本浩貴（文化研究者、アーティスト、金沢美術工芸大学講師）

小澤慶介（アーカスプロジェクト ディレクター）

国際展などの大きな展覧会に足を運ぶと、町から町、国から国へと移動して創作活動を行う芸術家の表現がますます注目を集めていることに気づきます。慣れた考え方を疑い、他の言語や文化、さらにはそれらがくぐり抜けてきた過去にも目を向け、自らと遠く隔たったものとの関係そのものを表現にすること。それは、まるで記憶をめぐる旅のようです。招聘アーティストの作品にも触れながら、町や国といった限られた枠組みを越えたところにある「何か」に導かれるように、新たな土地や人に出会ってゆく芸術家とその表現について考えます。

*予約不要〈日本語のみ・英語ウィスパリングあり〉

※プログラムの内容については変更の可能性があります。

最新情報はこちらよりご確認ください。 <https://www.arcusprojectopenstudios.com>

レジデンスプログラム参加アーティスト



撮影：Michael Tsubota

アリー・ツボタ（米国） Allie Tsubota

1992年アメリカ合衆国、ニュージャージー州生まれ。マサチューセッツ州ウースター在住。写真や映像、テキスト、アーカイブなどを組み合わせ、意味や記憶が形づくられる過程でさらに連関する調査に取り組み、作品を制作している。近代国家の歴史とアジア太平洋地域における人種の離散と同化に関心を寄せ、写真という特異な時間性を持つメディアを用いながら、ある人種がくぐり抜けてきた記憶をどのように目に見える形で再提示できるのかという課題に取り組んでいる。日系アメリカ人でもあるツボタは、自らの出自に刻まれている国が経験した太平洋戦争の記憶に近づくために、戦前から戦後にかけて活動した小説家で詩人の原民喜との擬似的な往復書簡を試みる。



梶原瑞生（日本） Kajihara Mizuki

1993年大阪府生まれ、京都市在住。音の意味を探ることに関心を寄せて制作をしている。近年では、構造が記譜によって明らかになっている西洋のクラシック音楽を主に題材とし、楽曲の歴史や作曲の経緯などをリサーチして作品を生み出している。組み立てられた楽曲の音を解体し、パフォーマンスをしたり映像を撮ったりしながら再構成することで抽象的な音を視覚化する。アーカスプロジェクトの滞在においては、茨城県の大洗町が発祥と言われる民謡《磯節》の再構成を試みる。



撮影：Roel Janssen

マリオライン・ファン・デル・ロー（オランダ）

Marjolein van der Loo

[2021年度オンライン・レジデンスプログラム参加]

1987年オランダ、ヘレーン生まれ、マーストリヒト在住。ファン・デル・ローはキュレーター、エデュケーターとして活動し、制作動機と方法論から近代社会を批評的に捉えるとともに、人間と自然のかかわりを結び直す試みをしている。集約的かつ排他的な近代社会のあり方への対抗として、彼女自身は他者との協働を行ったり、視覚のみならず五感を活用した展覧会制作や教育プロジェクトを実践したりする。アーカスプロジェクトでは、植物の観点から人間と生態系の関係の組み直しについて取り組むため、桂の木とそれにまつわる伝説「桂男」を調べ、テキストとして発表する。

お問い合わせ先

アーカススタジオ（火-土 10:00 -18:00）

〒302 - 0101 茨城県守谷市板戸井 2418 もりや学びの里内 担当 | 恩田・藤本

TEL | 0297 - 46 - 2600 E-mail | arcus@arcus-project.com Web | www.arcus-project.com

アーカスプロジェクト実行委員会事務局

茨城県政策企画部地域振興課 担当 | 皆川・大西

TEL | 029 - 301 - 2678

主催：アーカスプロジェクト実行委員会（茨城県、守谷市、公益財団法人茨城県国際交流協会）

後援：アメリカ大使館、オランダ大使館、国際交流基金

助成：令和4年度文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業

認定：公益社団法人企業メセナ協議会